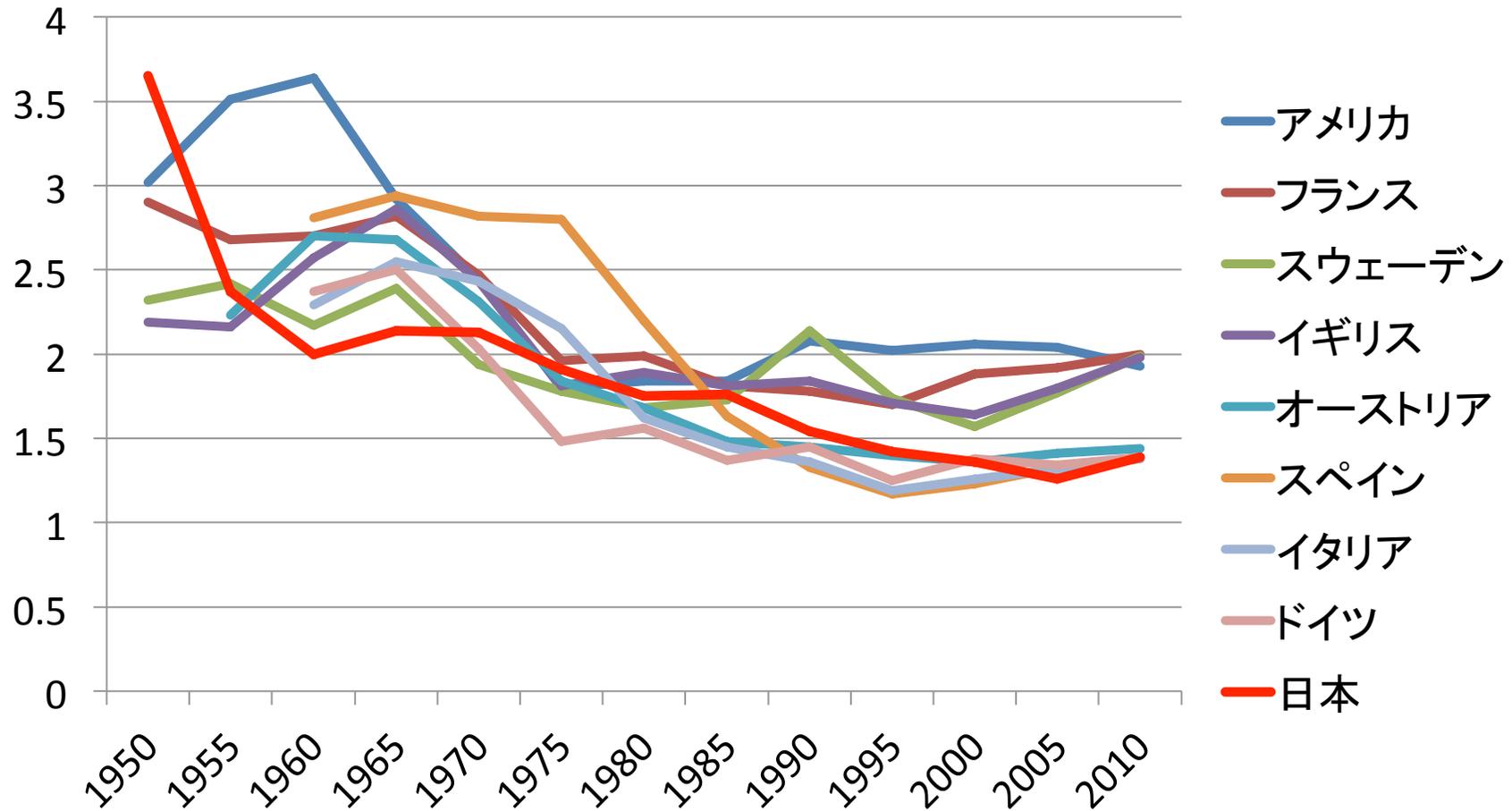


人口減少の時代：少子化の必然性

少子化(2):意識の転換

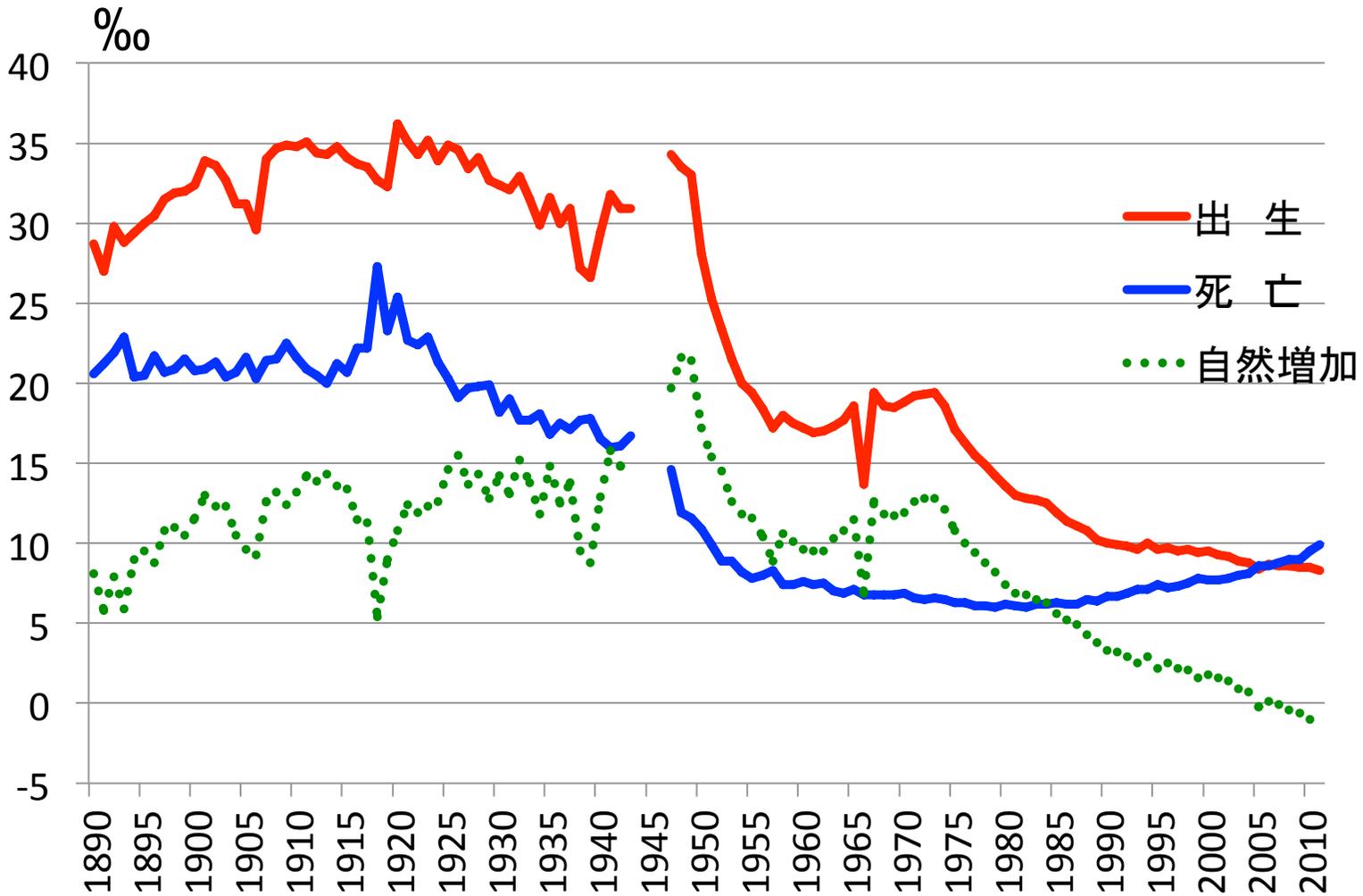
-主要先進国の少子化は70年代半ばに集中して起きた-



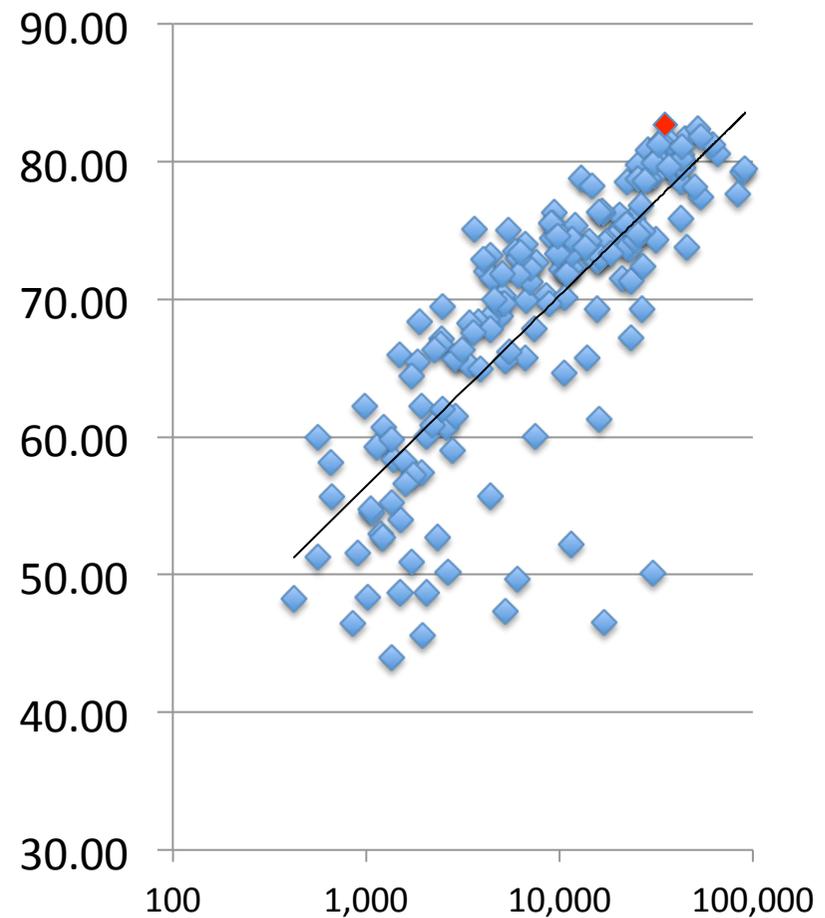
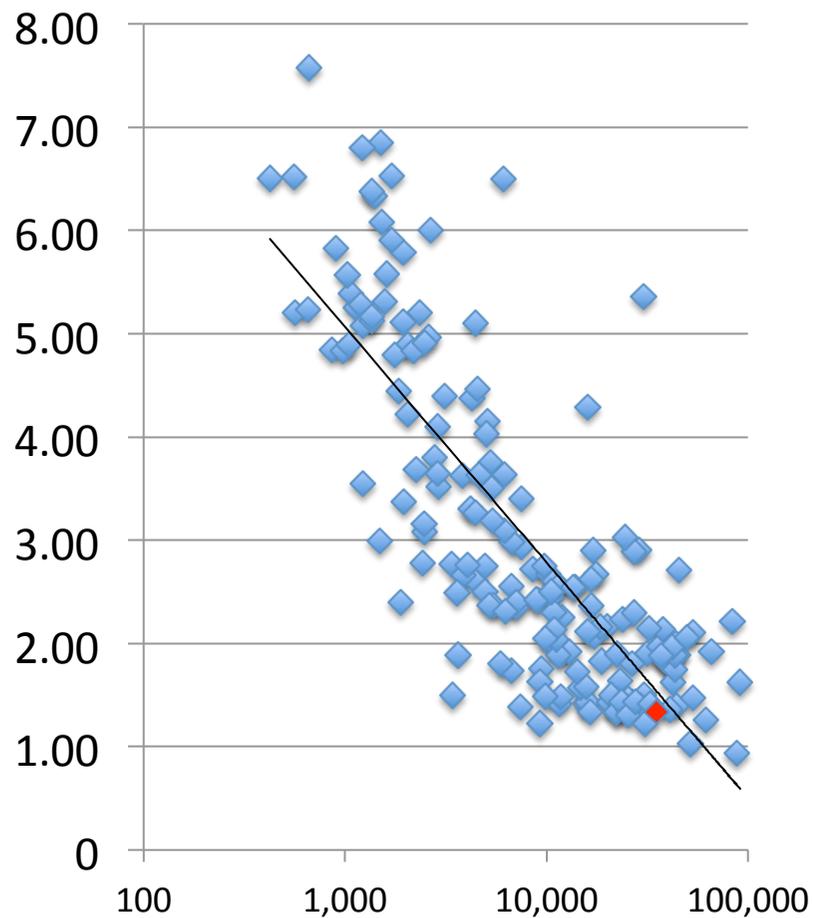
資料:国連世界人口白書より作成

少子化(1)人口轉換

人口1000人对出生率、死亡率、自然增加率



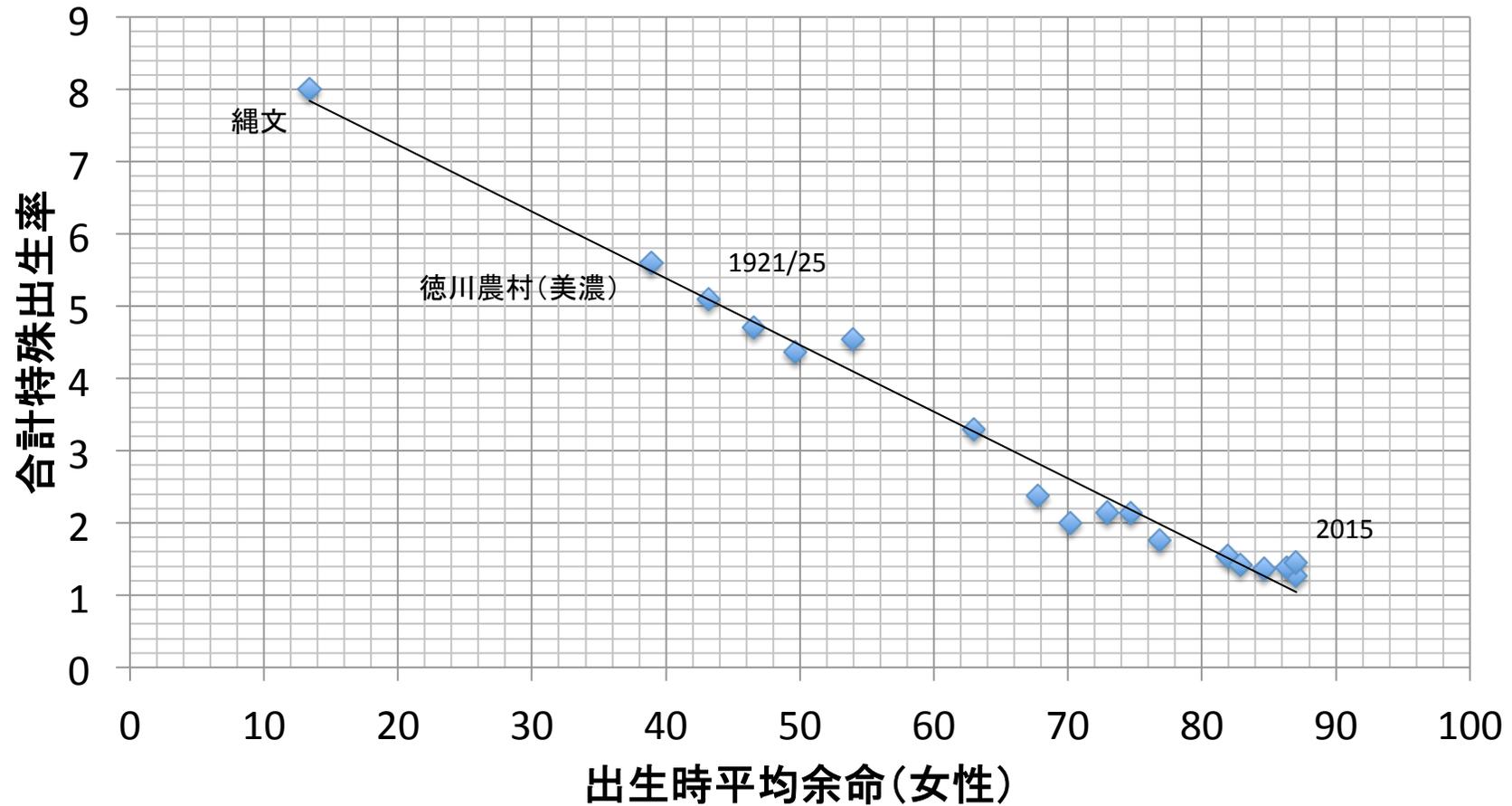
1人あたりGDPと合計特殊出生率(左)、寿命(右)



資料: e_0 (2005-10) UN Population Prospects, The 2012 Revision.
GDP(2012, 購買力平価, US\$), IMF World Economic Outlook Database.

平均寿命と完結出生数(日本)

縄文時代～2015年



注: 縄文時代に関してはモデル生命表による推計。徳川農村は斎藤修(1986)による。
近代は政府統計(生命表)。

意識の転換

- *Silent Spring*, (R. Carson, 1962) (『生と死の妙薬』1964、『沈黙の春』)
- *The Meaning of the Twentieth Century: the Great Transition*, (K. E. Boulding, 1964『20世紀の意味-偉大なる転換-』岩波新書)
- 公害対策基本法(日本, 1967)→4大公害訴訟の終結(1974)
- P. Ehrlick, *The Population Bomb*, 1968(『人口爆弾』1974)
- 「宇宙船・地球号」の意識(Apollo 8, Earthrise, 1968)
- *The Limits to Growth* (D. H. Meadows et. al. 『成長の限界-ローマ・クラブ人類の危機レポート-』1972)
- *The Mature Society* (D. Gabor, 『成熟社会』1972)
- 第1次石油危機(オイルショック, 1973)
- 世界人口会議(1974):「世界人口行動計画」採択
- ‘Sustainable Development’ (『世界保全戦略』1980, *Our Common Future* 1987)→国連地球サミット(1992)、国連持続可能な開発会議(リオ+20, 2012)
- ミレニアム開発目標(MDGS; 2000)→持続可能な開発目標(SDGs; 2015)
- 経済協力開発機構(OECD; Well-being Index, 2011→Better Life Index, 2015)

少子化(3): 家族制度

超低出生率国には共通の特徴がある

アジア		西・北欧		東・南欧	
香港	0.96	リトアニア	1.26	ポーランド	1.22
台湾	1.18	ラトビア	1.29	ボスニア・ヘルツェゴビナ	1.23
韓国	1.20	ドイツ	1.36	チェコ	1.24
シンガポール	1.26	オーストリア	1.42	スロバキア	1.25
日本	1.27	スイス	1.42	スロベニア／ハンガリー	1.28
中国	1.73	エストニア	1.49	ルーマニア	1.30
北朝鮮	1.85	ベルギー	1.65	ブルガリア	1.31
タイ	1.85	オランダ	1.72	ギリシャ	1.33
モンゴル	1.86	デンマーク／スウェーデン	1.80	クロアチア	1.35
スリランカ	1.88	イギリス	1.82	イタリア	1.38
-		フィンランド	1.83	スペイン／マケドニア	1.42
-		ノルウェー	1.84	ポルトガル	1.46

資料: 国連人口基金『世界人口白書2008』、台湾についてはIMF統計による。

超低出生率社会：家族類型の類似性

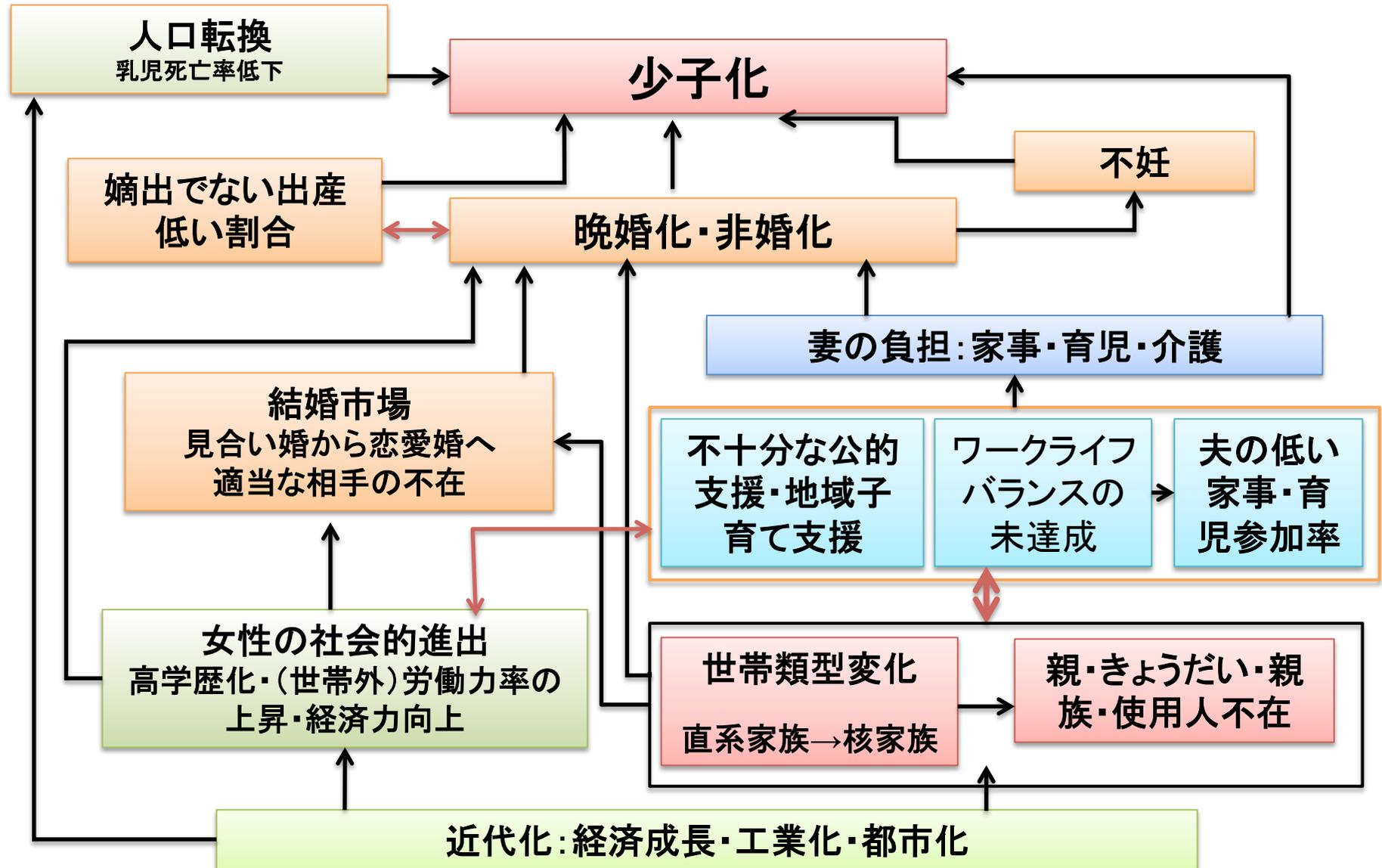
ヨーロッパの家族類型 (E.Todd)

酒井順子『儒教と負け犬』2009年

	自由 ⇔ 権威	
不平等 ↑ ↓	絶対核家族 イングランド	権威主義家族 ドイツ (日本・韓国)
平等	平等主義家族 フランス北部	共同体家族 ロシア (中国・台湾)



日本の少子化に関する考え方



Earthrise

NASA Apollo 8 Des.24, 1968



「静止人口」は国家目標だった



1974年、国は「静止人口」の実現を、人口白書で訴えた。

背景(1) 第1次石油危機

背景(2) 国連世界人口会議



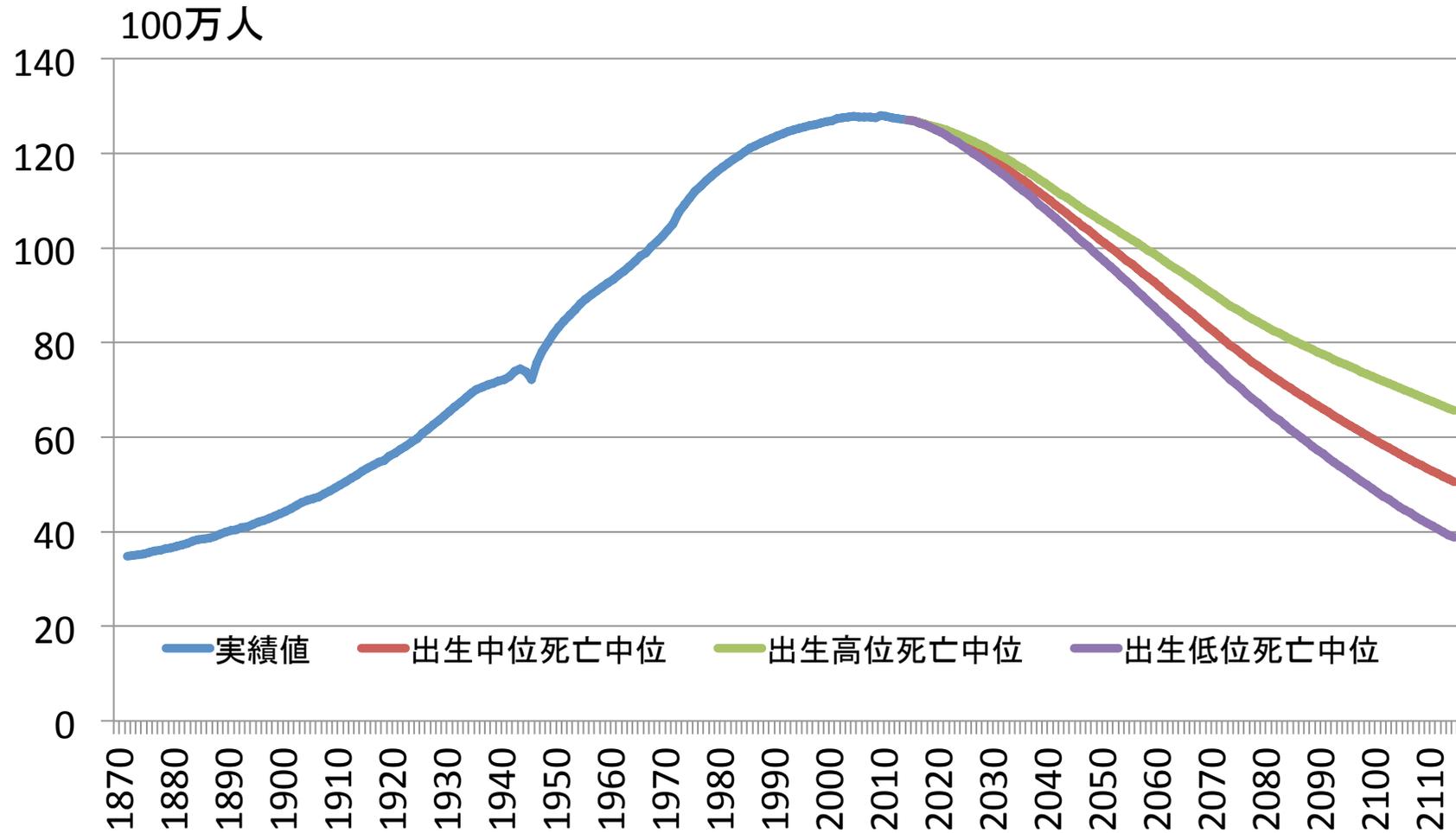
純再生産率0.96(当時の合計特殊出生率換算2.02。現在なら1.98に相当)に低下させれば、「昭和85年」に最大(1億3114万人)それ以後は減少に転じると予測。

CIVILIZATION 5.0

—静止人口の先にあるもの—

最新の人口推計が示す日本の未来

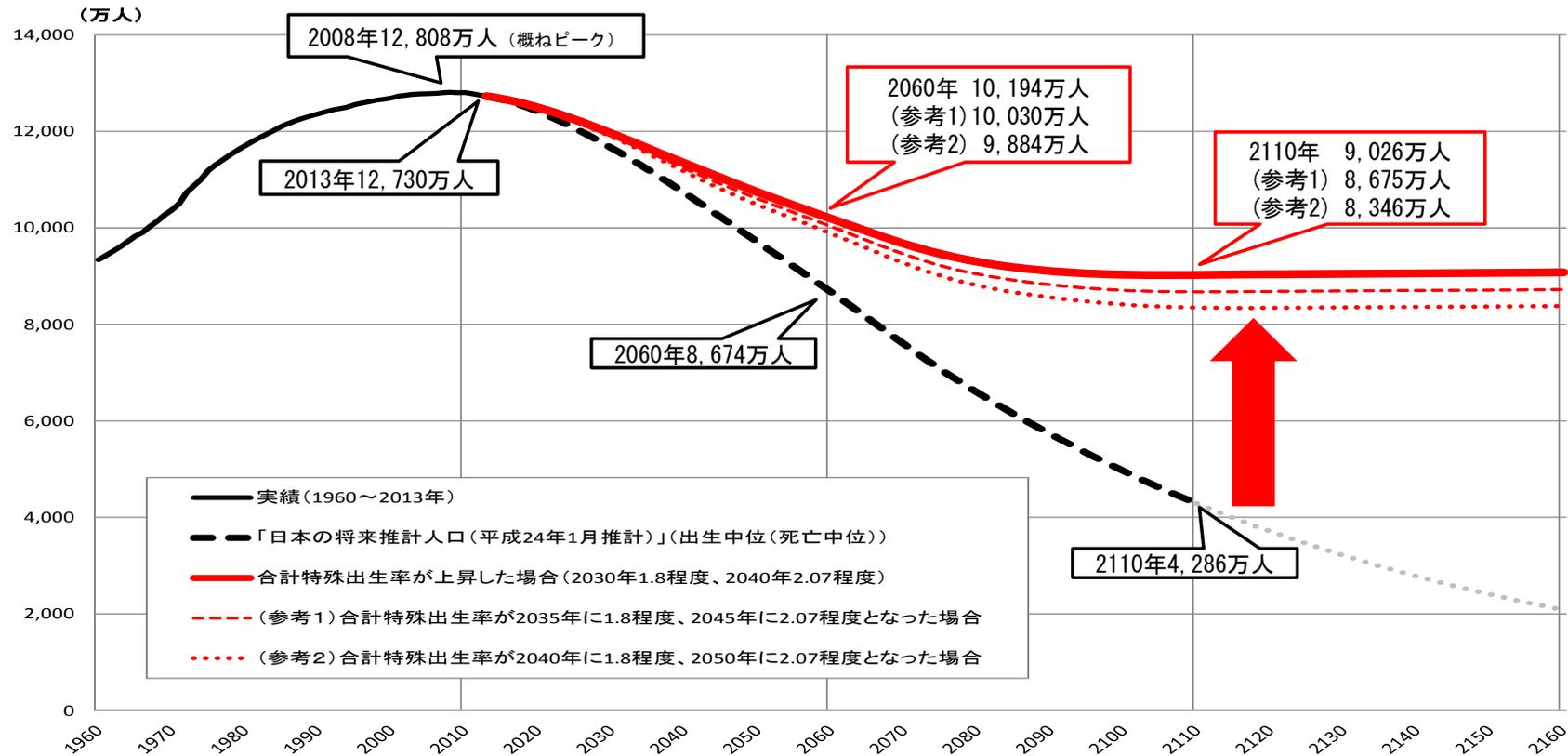
日本の総人口 1872-2115年



注: 2016年以降は推計値(国立社会保障・人口問題研究所 2017年将来推計人口)

国の長期ビジョン

-出生率が回復しても静止人口の実現には時間がかかる-

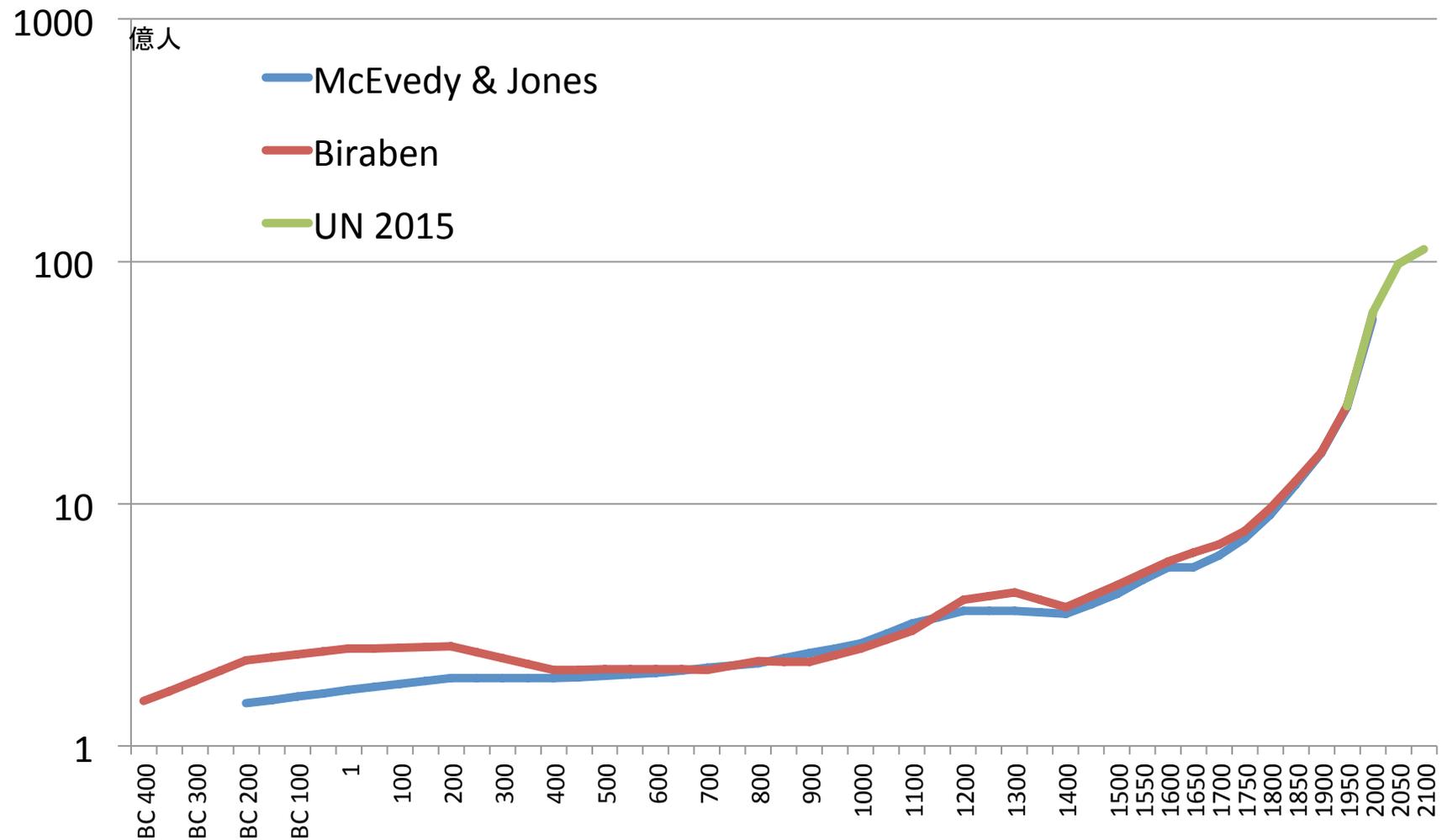


(注1) 実績は、総務省統計局「国勢調査」等による(各年10月1日現在の人口)。国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」は出生中位(死亡中位)の仮定による。2110～2160年の点線は2110年までの仮定等をもとに、まち・ひと・しごと創生本部事務局において機械的に延長したものである。

(注2) 「合計特殊出生率が上昇した場合」は、経済財政諮問会議専門調査会「選択する未来」委員会における人口の将来推計を参考にしながら、合計特殊出生率が2030年に1.8程度、2040年に2.07程度(2020年には1.6程度)となった場合について、まち・ひと・しごと創生本部事務局において推計を行ったものである。

世界人口の推移(対数目盛)

BC400~2100AD

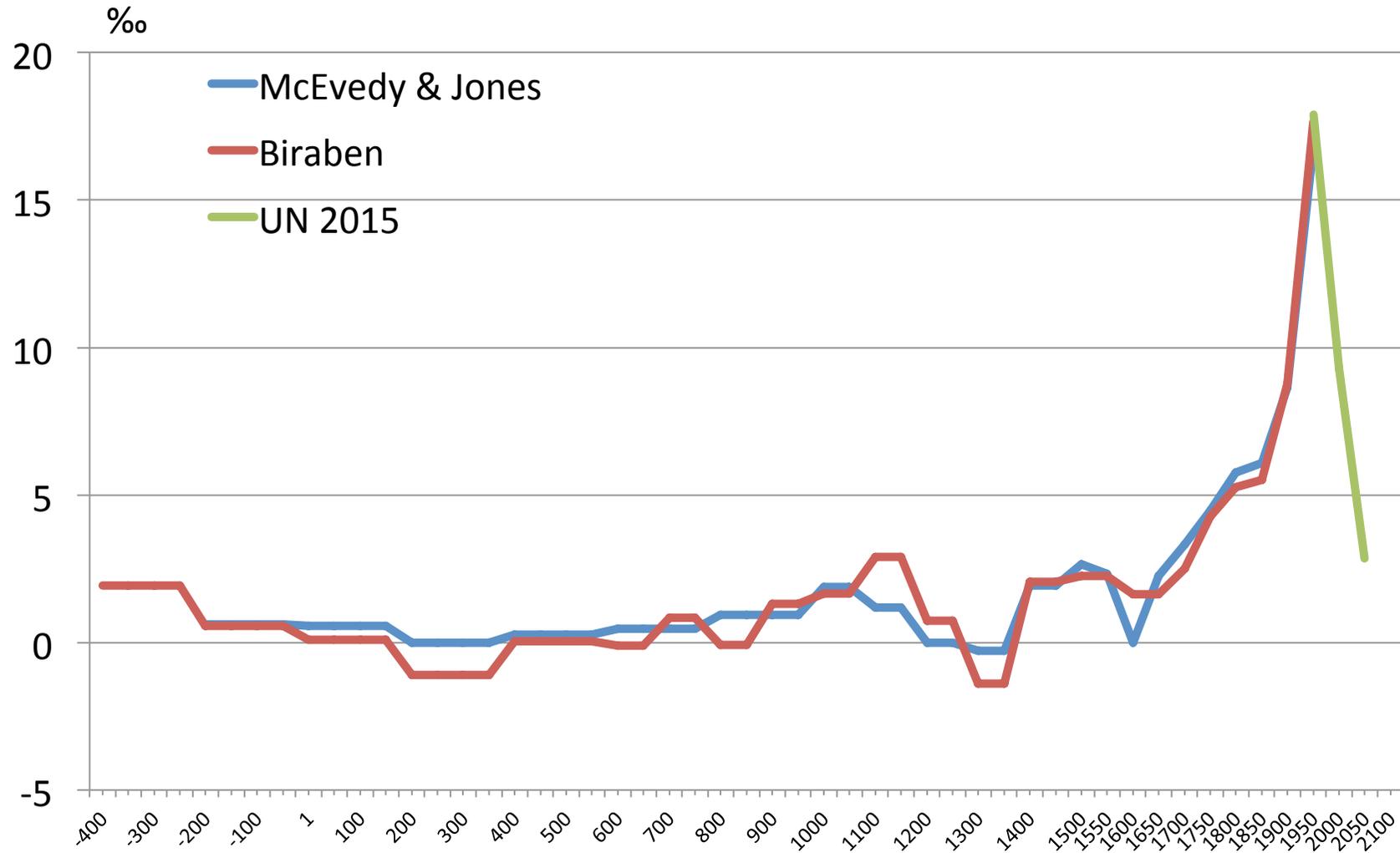


資料: McEvedy & Jones(1978), Biraben(1979), 国連推計(2015)

注: 推計のない年度については補間推計を用いた。

世界人口の増加率(‰)

BC400年～2100年



21世紀：文明のパラダイムシフト

- 「日本再興戦略2016-第4次産業革命に向けて-」
- 第4次産業革命：Industry 4.0 蒸気機関/機械化→電気/大量生産→コンピューター/自動化→スマートファクトリー
- ICT, IoT, AI, ロボット, ビッグ・データ, ゲノム編集・・・
- 「Society 5.0」：第5期科学技術基本計画 狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く「超スマート社会」



- 消える仕事・残る仕事：なくなる職業が増えてくる。
- 教育改革における「学力の三要素」：イ)新しい時代にふさわしい十分な知識・技能、ロ)問題発見と問題解決していく思考力、判断力、表現力、ハ)主体的に協働して学ぶ態度

21世紀文明をデザインする

- 「持続可能な開発」: 新文明のベースは再生可能エネルギー。「循環型社会」「還流文明」「生命文明」
- 新しい豊かさの実現: GDPの成長だけではない豊かさ(例: OECDのBetter Life Index)。
- 超高齢化社会 = 長くなったライフサイクルへの適応: 高齢者の概念、高齢者の生活支援、高齢者自身の人生設計。
- 人口縮小社会への適応: 社会規模のダウンサイジング(縮減)にかかわらず、快適な都市、豊かな地方を形成して、持続可能な社会を実現する(「自立・共生・循環・持続」: 新たな国土形成、集落・都市の再編成)。

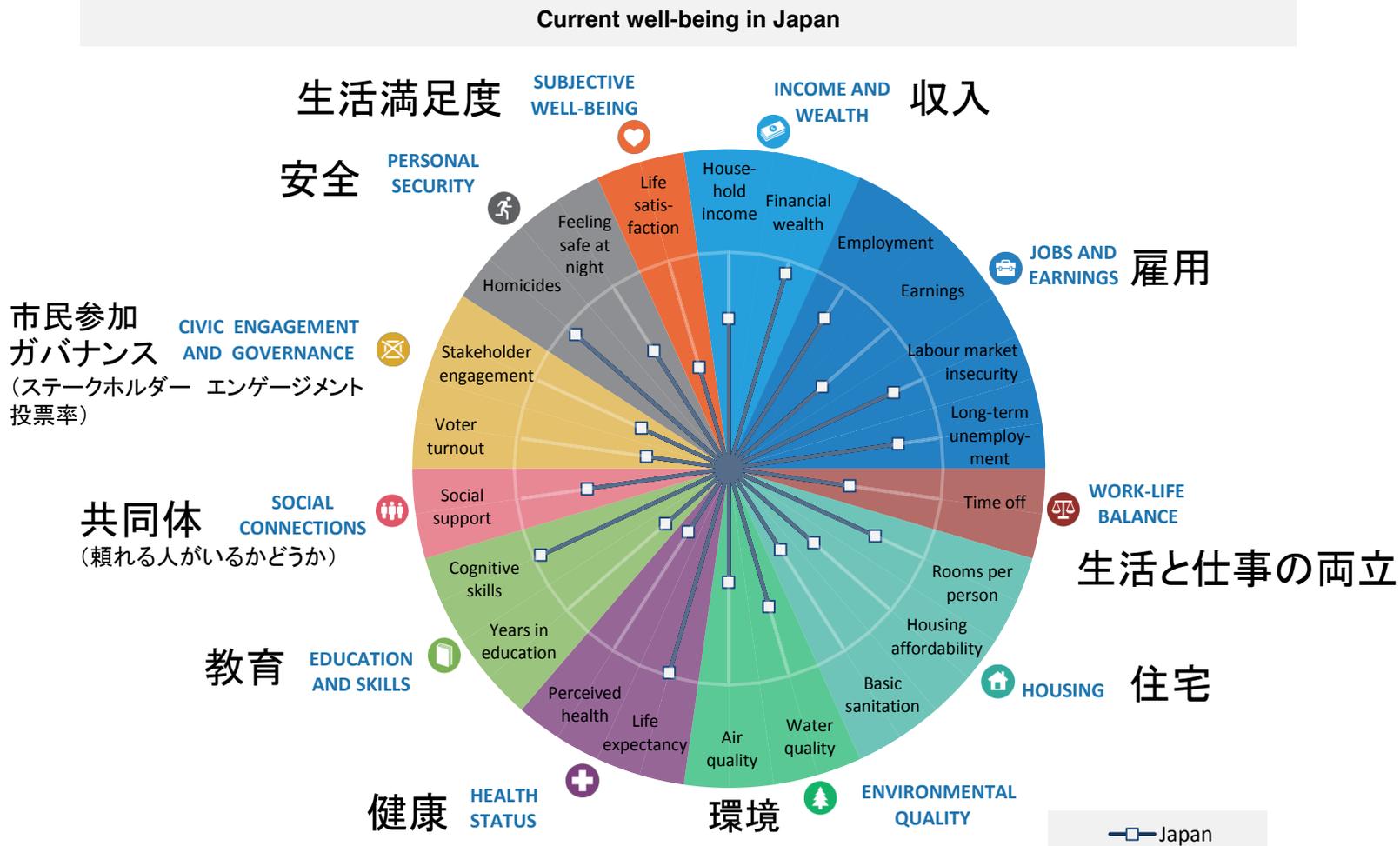
持続可能な開発目標

Sustainable Development Goals (2015)



地域の魅力とは何か？

-OECDのWell-being指標(2016)-



This chart shows areas of well-being strengths and weaknesses in Japan, based on a ranking of all OECD countries. Longer lines show areas of relative strength, while shorter lines show areas of relative weakness. For more details, see www.oecd.org/statistics/Better-Life-Initiative-2016-country-notes-data.xlsx.

Source: OECD calculation based on the OECD Better Life Index 2016 database, <http://stats.oecd.org/Index.aspx?DataSetCode=BLI>.

OECD: Better Life Index (2016)

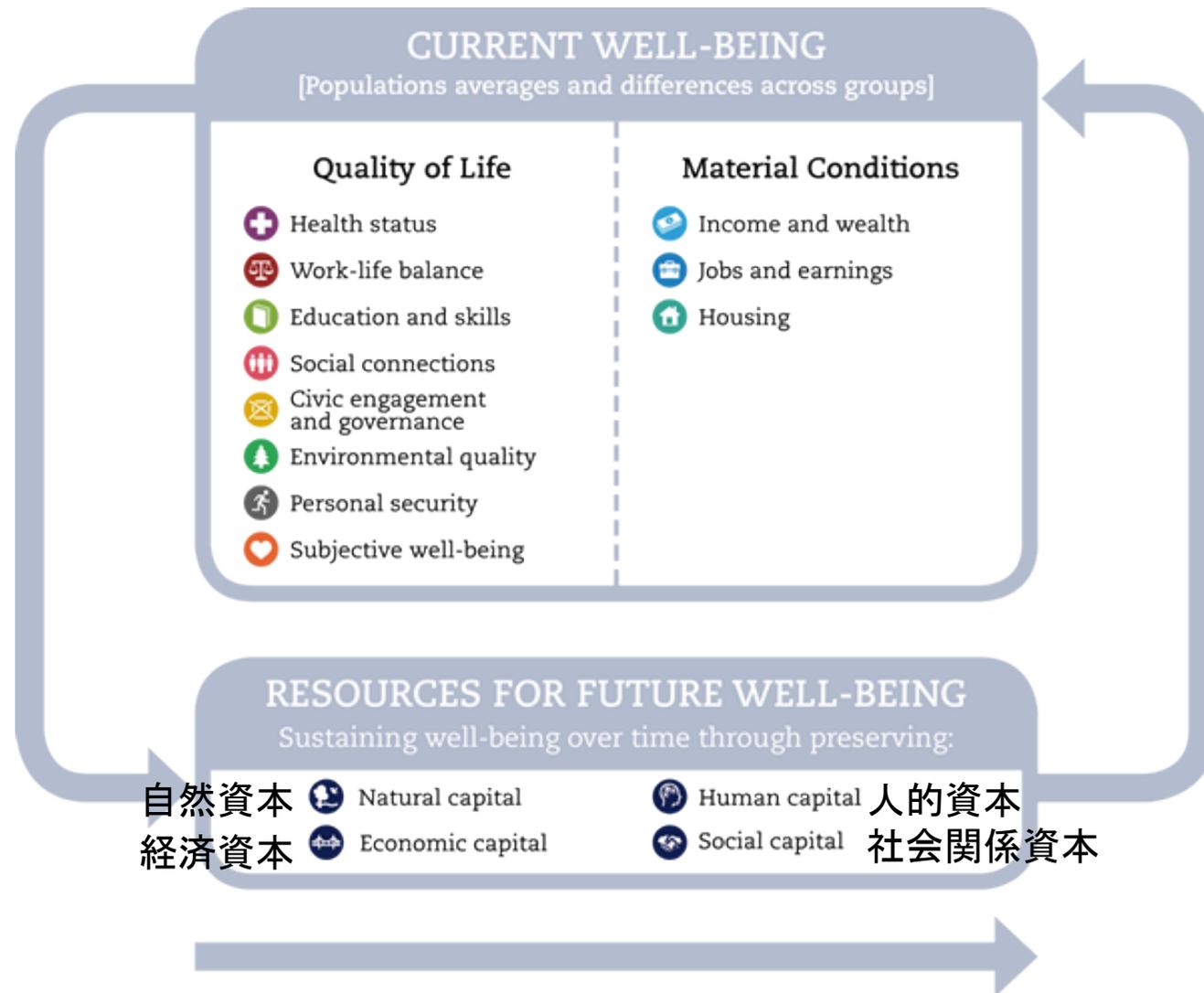
—日本は38カ国中、23位—



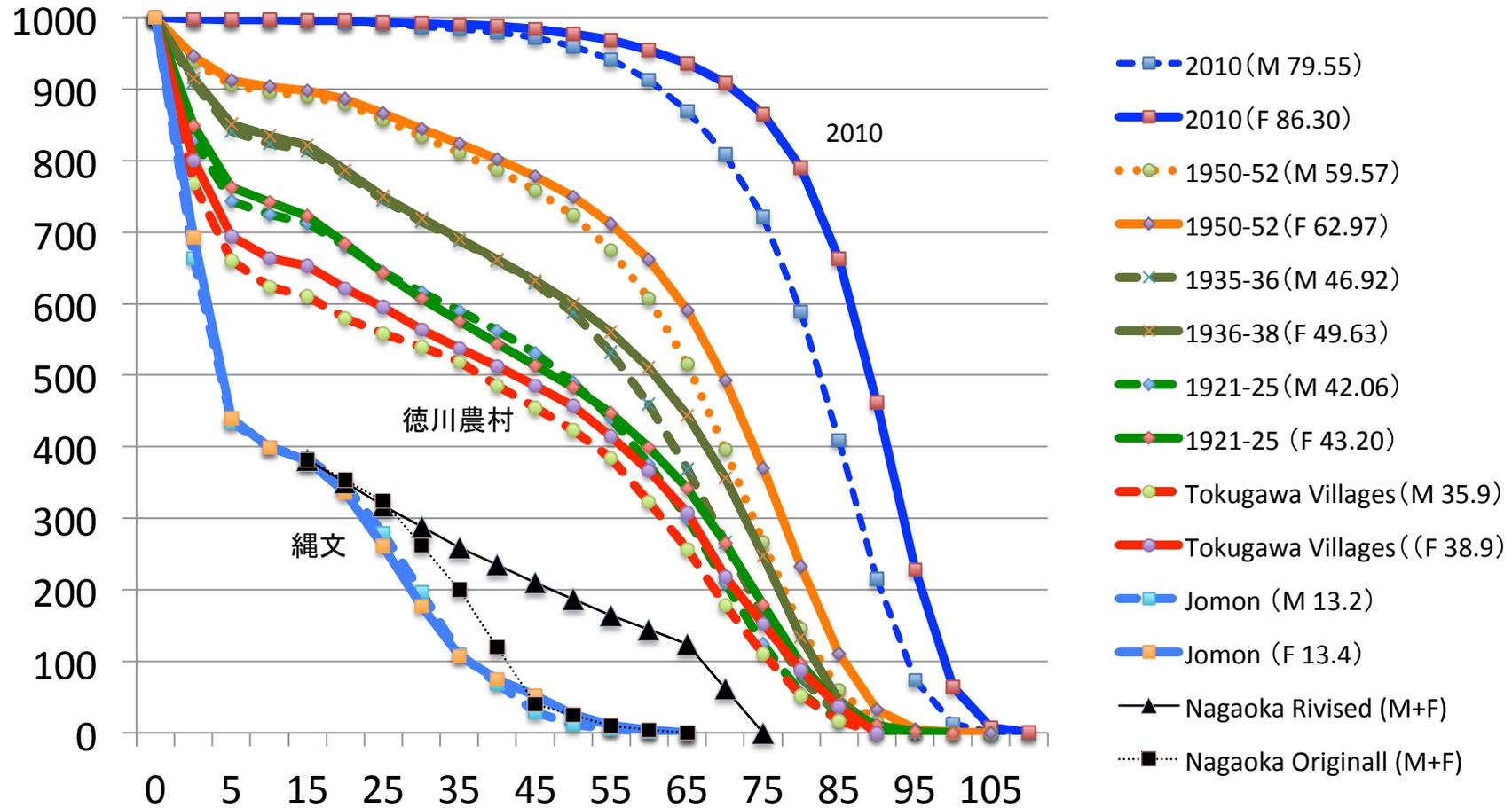
- ・住宅(23位)
- ・所得(5位)
- ・仕事(14位)
- ・コミュニティー(17位)
- ・教育(10位)
- ・環境(21位)
- ・市民参加(37位)
- ・健康(34位)
- ・生活満足度(29位)
- ・安全(16位)
- ・ワーク・ライフ・バランス(34位)

Well-being と進歩に関するフレームワーク

OECD Measuring Well-being and progress (HP)



年齢別生存率の比較(l_x , 出生=1000)



注: 縄文時代は小林和正のデータにPrinceton Model South 1を適用、美濃農村は斎藤(1992)、1921/21年以後は厚生労働省など「生命表」による。

ふじのくに型「人生区分」

— 76歳まで壮年・45歳まで青年 —

静岡県では、健康寿命が男性71.68年、女性75.32年であることをふまえ、現役で活躍する高齢者の方々を応援する、本県独自の“ふじのくに型「人生区分」”を提示しました。

みんなが、元気で活躍できると、健康寿命の延伸と元気で活力あるいきいき社会につながるね♪



生きがいと健康づくりのイメージキャラクター
ちゃっぴー©静岡県

○ 人生区分の呼称と年齢

呼 称		年齢区分	説 明
老年	ひやくじゆしゃ 百寿者	100歳以上	白寿後（100歳）以上 茶寿（108歳）、皇寿（111歳）含む。
	長老	88 - 99歳	米寿（88歳）・卒寿（90歳）から白寿（99歳）まで
	中老	81 - 87歳	傘寿後から米寿前まで
	初老	77 - 80歳	喜寿（77歳）から傘寿（80歳）まで
壮年	じゆくき 壮年熟期	66 - 76歳	経験を積み、様々なことに熟達し、社会で元気に活躍する世代（働き盛り）。
	せいき 壮年盛期	56 - 65歳	
	壮年初期	46 - 55歳	
青年		18 - 45歳	社会的・生活的に成長・発展過程であり、活力みなぎる世代。 (農水省事業や地区商工会議所で45歳まで青年としている)
少年		6 - 17歳	小学校就学から選挙権を有するまでの世代
幼年		0 - 5歳	命を授かり、人として発達・発育する世代

健康寿命日本一
ふじのくにの挑戦!

